

### ■学校経営のポイント

## 子供を守り抜く学校づくり

小島 宏

平成29年度のスタートに当たり、校長の学校経営方針を示し、全教職員に周知・徹底させたい。その際、「子供の生命を守る」ことを最優先に具体策を練り、誠実に着実に実行したい。

### 登下校の安全

通学路は友達と談笑する楽しい場である反面、交通事故、誘拐・連れ去り、性被害、暴行・傷害などの危険で満ち溢れている。悲しい報道を引き合いに出すまでもなく、残念ながら悪意のある大人の存在に警戒せざるを得ない。

そこで、学校の子供に対する指導・対応のマニュアルを再点検するとともに、保護者や地域住民、地元警察などと協力・連携して具体的に進める。

### いじめ

報道や調査などによると、重大な事案に発展したいじめに共通することは、不十分な指導、不誠実な対応、見ぬ振り、見過ごし、先送りなどが多い。また、子供同士のいじめに限らず、最近は教師の心ない言動(教師のいじめ)も少なくない。心したい。

指導・対応策の再点検と実行、いじめを題材にした道徳科や学級指導の充実、いじめの早期発見と即指導・対応を、チーム学校として全学級・全教師が地道に実行するようにしたい。

保護者に対しては「我が子がいじめられているのでは？」と感じたら直ちに学校に相談してほしい、「我が子は絶対にいじめをしていない」ということを実現してほしいと、啓発してほしい。

### 怪我と急病

過去の事例を分析し、関連情報を共有し、授業や校外学習・宿泊・部活動、休憩時等の事故、施設瑕疵による怪我などの予防と対応に万全を期したい。

また、保健主事や養護教諭を中核として、健康調査と日々の健康把握を適切に行うとともに、持病や急病への対応を確実かつ丁寧に進めるようにする。

アレルギー体質(食物アレルギー)の対応体制を整え、正確な点検と対応を指導・指示する。

### 教職員の不祥事

最近、教職員による窃盗、猥褻・セクハラ、体罰など信用失墜行為が後を絶たない。教職員は子供にとってモデルであるべきなのに、ゆゆしきことである。例えば、「年度初めに資料を示して指導する」「定期的に繰り返し指導する」「適宜、新聞報道などの事例を示して指導する」「そのような傾向が窺える者には、個別に、常に指導を繰り返し、牽制し、封じ込める」という手順で指導することが肝要である。

### UD(ユニバーサルデザイン)

全ての子供が、安心・安全・安定した学校生活と学習ができるようにし、幸せを実感し、元気で明るく前向きになるようにしたい。そのために、公平な利用、分かりやすい情報、間違いに関する寛大さなどUDの7原則(国立特別支援教育総合研究所)等を参考に、UDによる授業づくりに努めたい。

### 質の高い教育の保障

以上、子供の「3あ(安全・安心・安定)」の保障が重要である。当然この中には、「質の高い教育(知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等)」の育成が、学校の責務として含まれていることを再確認しておきたい。

新学習指導要領に基づく指導計画の作成とそれを実現する授業づくりに向け、教職員を方向付けることが、校長、副校長・教頭の仕事である。

(こじま・ひろし=元公立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

● 2017年版 校長・教頭のための最強スケジュール帳

## 2017 スクール・マネジメント・ノート

【監修】小島宏 【企画・製作】教育開発研究所 A5判・268頁/定価(本体2,200円)+税

■ 研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

